

## 第8回「栄養とエイジング」国際会議プログラム

～“平均寿命と健康寿命が一致する社会の実現”～

2019年10月1日（火）～2日（水）

東京 青山 国際連合大学 ウ タント国際会議ホール

10月1日（火）（\*場所・演題名・演者は変更になる場合がございます。ご了承ください）

9:00-9:10 **開会の挨拶** 宮澤 陽夫（ILSI Japan 会長）

### セッション1： オーバービュー

◆座長： 岩元 睦夫

9:10-9:50 **【長寿社会の課題と可能性】** 秋山 弘子（東京大学名誉教授）

長年続いた人生50年時代から100年時代への急速な移行。長寿社会の新たな生き方と社会のあり方が問われている。課題と可能性が山積するイノベーションの宝庫。テクノロジーと社会の仕組みのイノベーションが求められている。

9:50-10:30 **【日本の栄養政策の歴史】** 正林 督章（元厚生労働省健康課長 環境省大臣官房審議官）

第二次世界大戦直後、貧困、食料不足が深刻となり、結核をはじめとした感染症が猛威を振るう中、GHQ占領下で日本の栄養政策を含む保健医療政策は戦後大きく変わり、平均寿命も劇的に改善された。こうした日本の栄養政策の歴史を振り返り、現代の課題を提示する。

10:30-10:40 **休憩** ◆座長： 辻村 英雄

10:40-11:20 **【健康日本21（第2次）の現状と課題】** 辻 一郎（東北大学大学院医学系研究科 公衆衛生学専攻 教授）

健康日本21（第二次）は、2018年に中間報告が終わり、後半5年の途上にある。健康寿命の動向と栄養・食生活に関する項目を中心に、中間報告の結果を概括したうえで、今後の課題と健康づくりのあり方を展望したい。

11:20-12:00 **【International Research Developments Focus on Human Variation in Response to Food and Nutrients】** Dr. Richard Head（南オーストラリア大学 がん研究センター名誉教授  
オーストラリア）

There is a convergence of a number of key aspects of Nutrition and Aging research. There is the ongoing research interest in healthy aging and in nutrition for older adults. Concurrently there is a growing research focus on human variation in response to food and nutrients. Aspects of this convergence will be explored.

12:10-12:50 **総合討論** セッション1 講演者全員 及び モデレーター： 辻 一郎（東北大学大学院医学系研究科 教授）

12:50-13:50 **昼食**

## セッション2： ILSI JAPAN の取り組み

◆座長： 中村 丁次

13:50-14:00 【健康な食事研究会】 安川 拓次 (ILSI Japan 理事長)

14:00-14:20 【健康な食事研究会 (健康な食事の概念構築)】  
佐々木 敏 (東京大学大学院医学系研究科 社会予防疫学分野 教授)

「長寿国日本の食は健康な食事なのか」を議論する前段階として「日本食」を科学的に定義することが可能なのか否かを検索した。人を対象とした日本食に関して該当した論文を系統的に精査し検討し、日本人にとっての「健康な食事」の社会実装に向けた課題と可能性を提言したい。

14:20-14:40 【健康な食事研究会 (中食の実態把握)】  
坂田 隆 (石巻専修大学理工学部 教授)

惣菜や弁当、配食などの中食企業への調査を元にして、企業が「健康な」食事にとって重要だと考える栄養や食材、こうした商品の開発・訴求のしかた、官・学に対する要望を紹介する。

14:40-15:00 【健康な食事研究会 (社会実装)】  
桑田 有 (人間総合科学大学大学院 教授)

国民全体に健康な食事を普及していくための社会実装を目指した先行事例を調査研究し課題の抽出と解決策の糸口を探る。

15:00-15:10 休憩

◆座長： 阿部 文明

15:10-15:50 【東京大学 機能性食品ゲノミクスー寄付講座成果の総括】  
阿部 啓子 (東京大学大学院 教授)

機能性食品の生体効果・効能をゲノミクス技術により解析し、健康長寿への貢献度を予測した。その成果 (200 報以上の論文発表) の概要と食品による健康 (恒常性・未病) 維持ならびに発病遅延の機構の一端を食品・栄養の面から解明した。

15:50-16:30 【第9回ライフサイエンス・シンポジウムー総括 栄養科学と運動科学の融合】  
宮地 元彦 (国立健康・栄養研 身体活動研究部 部長)

ILSI Japan は、食生活の改善とともに健康維持に欠かせない重要な要素の一つである「身体活動」についても着目し「栄養と運動」をキーワードとした活動に取り組んできた。栄養科学と運動科学に関する新たな切り口を追求した本シンポジウムでの発表と議論を総括し、超高齢化社会が直面する「健康寿命の延伸」問題を解決する糸口を探る。

16:40-17:20 総合討論

セッション2 講演者全員 及び モデレーター： 宮地 元彦 (国立健康・栄養研 身体活動研究部 部長)

17:30-20:00 懇親会

10月2日(水)

セッション3： プレジジョンニュートリションで拓く健康の未来

◆座長： 安川 拓次

9:00-9:40

基調講演

宮田 裕章 (慶應大学医学部 医療政策・管理学教室 教授)

◆座長： 阿部 圭一

9:40-10:20

【先端データサイエンス (AI と個別化医療)】

井元 清哉 (東京大学医科学研究所 教授)

生活習慣や低侵襲の検査値からさまざまな疾患の将来罹患リスクが分かれば、多くの方の疾患予防、健康向上に役立つだろう。経時的健康診断のデータから疾患に関連する疾患リスクを予測するシミュレーションモデルを紹介し、ゲノム情報を用いたパーソナル化について説明する。

10:20-11:00

【Personalizing Nutrition for Healthy Aging】

Dr. Jose Ordovas (タフツ大 教授 アメリカ)

Director Nutrition and Genomics, Professor Nutrition and Genetics, JM-USDA-HNRCA at Tufts University  
The current increase in life expectancy has added sick, rather than healthy years to our lives. In order to achieve both, longer and healthy lives, we need to predict an individual aging trajectory based on genomic, epigenomic and metabolomic information and to develop personalized dietary and behavioral recommendations that will facilitate successful aging.

11:00-11:10

休憩

◆座長： 国澤 純

11:10-11:50

【Gut Microbiome and Nutrition】

Dr. Doris Vandeputte (ルーベン大 ベルギー)

Department of Microbiology and Immunology, KULeuven, Belgium  
We are only beginning to understand how microbes affect our daily lives, yet it is clear they affect our health in many ways. Here we will take a closer look at our gut microbes in health and disease, and discuss how we could use this knowledge to improve lives.

11:50-12:30

【Harnessing the gut microbiome to promote metabolic health】

Dr. Niv Zmora\*\* (ワイツマン研究所 イスラエル)

People consuming identical meals present high variability in post-meal blood glucose responses. Personalized diets created with the help of an accurate predictor of blood glucose response that integrates parameters such as the gut microbiota may successfully lower postprandial blood glucose levels and its long-term metabolic consequences.

\*\*Dr. David Zeevi は変更になりました。

12:30-13:40

昼食

◆座長： 谷口 茂

13:40-14:20

【アミノ酸バイオマーカー】

木村 毅 (味の素(株)取締役 常務執行役員)

非感染性疾患の早期発見とリスク評価のためのバイオマーカー：癌の早期発見および糖尿病、心筋梗塞および脳卒中の予測リスク評価のための血漿遊離アミノ酸プロファイルの使用について紹介する。

14:20-15:00

【運動・身体活動と普及科学】

鎌田 真光 (東京大学大学院医学系研究科 保健社会行動学分野 助教)

運動・身体活動は重要な生活習慣だが、人々の行動を変えるにはどのような対策が効果的だろうか？健康無関心層など、従来の知識提供型・教室型の健康づくりではカバー出来なかった層も射程に入れつつ、マーケティング等を活用した普及手法を紹介する。

15:00-15:40 **【時間生物学: 生物時計と生体リズム】**

**山仲 勇二郎** (北海道大学大学院教育学研究院 准教授)

生物時計はヒトの行動と生理機能に 24 時間のサーカディアンリズムを発振し、正常な生理機能の発現に重要な役割を担っている。本講演ではヒト生物時計の基本性質および生物時計の同調状態が心身の健康に与える影響について我々の研究成果を交えて紹介する。

---

15:40-15:50 **休憩**

---

15:50-17:20 **パネルディスカッション**

---

セッション 3 講演者全員 及び モデレーター: **宮田 裕章** (慶應大学医学部 医療政策・管理学教室 教授)

---

17:30-17:40 **閉会の挨拶** **安川 拓次** (ILSI Japan 理事長)

---

特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構 (ILSI JAPAN)

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-19 にしかわビル 5 階

[webmaster@ilsijapan.org](mailto:webmaster@ilsijapan.org) <http://www.ilsijapan.org/>